

情報収集は 防災対策のかなめ

風水害は風や雨など自然現象が原因で起こる災害のため、予測がたてにくく、完全には防ぎにくいというのが実際です。しかし、有益な情報を集めることで、危険を回避できるように準備し、被害を最小限にすることができます。

集中豪雨に どう対処するか

短時間のうちに狭い地域に集中して降る雨・集中豪雨は、突発的に降ることが多く、予測は比較的困難です。中小河川の氾濫や、土砂崩れやがけ崩れなど、大きな被害を生むことがあり、がけ付近や丘陵の造成地、扇状地、レジャーなどで山間部の河川にいる場合は、気象情報に十分注意しましょう。

いざという時に どうするか

避難のタイミングを逸することで、被害に遭うことが少なくありません。風水害の場合は、「このままでは危険だ」ということになり、いざ避難を開始するときには、もはや外は腰まで水がかかるような、移動には危険な状態になっていることがあります。警報の変化など、情報には敏感に反応し、早め早めに行動することが大切です。

■こんな情報に注目しよう

●テレビ、ラジオからの情報

気象庁からの警報・注意報には注意すること。また電話(知りたい地域の市外局番-177番)で地元の気象台が発表する情報を聞くことができます。



●消防署、警察署、市区町村からの情報

消防団などにはその土地に古くから住んでいる人が多く、過去どんな災害があったか知っているので指示には必ず従いましょう。特に、河川の流域や昔、河川敷だった所は注意しましょう。

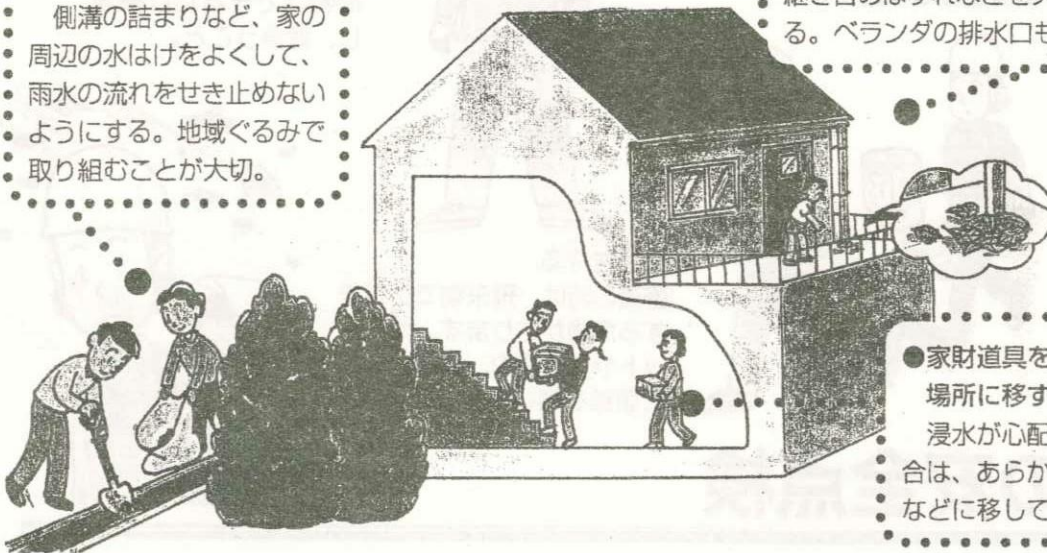
■集中豪雨や台風などの雨に備えるために

●家の回りの点検

側溝の詰まりなど、家の周辺の水はけをよくして、雨水の流れをせき止めないようにする。地域ぐるみで取り組むことが大切。

●雨どいや、排水口の点検

落ち葉や土砂などを取り除き、継ぎ目はずれなどをチェックする。ベランダの排水口も注意。



●家財道具を安全な場所に移す

浸水が心配される場合は、あらかじめ2階などに移しておく。

■避難のタイミング

- 避難は一般に、避難指示に従って、時を移さず行うことが重要です。
- むだ足覚悟で早めに行うことが、命を守れるかどうかの境目になることがあります。特に集中豪雨による水害は、ほとんど瞬間的に襲ってきますの

で、起きてからでは避けられない可能性があります。

- 災害の常襲地域や河川付近などの危険な地域で、特に子供や高齢者の方がいる世帯では夜間の移動を避けるためにも、早めに避難しましょう。

■避難の方法

- 隣近所で声をかけ合って、集団で避難しましょう。
- 乳幼児、高齢者、病气や身体の不自由な方は、優先的に安全に避難させるようにしましょう。その際は、警察署、消防署などの防災関係機関へ連絡を取り、対応を十分に行うようにしましょう。

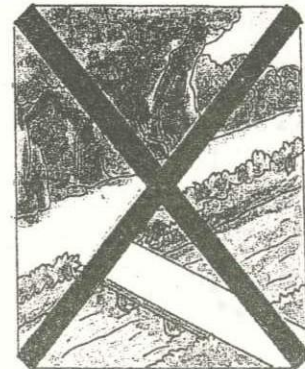


避難の時に注意すること

- はき物に注意しよう
裸足、長靴は禁物。
ひもでしめる運動靴
などがよい。

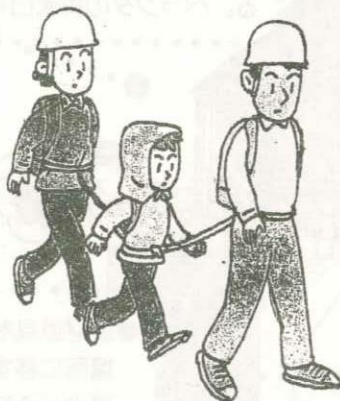


- 足元などに注意
洪水時は水面下にマンホール、
側溝などの危険が潜んでいる。
長い棒を杖として安全を確かめ
ながら移動すること。また、夕
刻以降は必ず大きめの懐中電灯
を持つこと。



- 避難コースは
知っている道を
低地、がけ下、川沿い、
橋は避けて移動する。

- ロープでつないで
単独行動は避け、はぐれ
ないようにお互いの体を
ロープでつないで避難す
る。子供からは目を離さ
ないように。



- 頭部を守る
強風の際は、飛来物でケガを
する危険があります。ヘルメ
ットや防災頭巾、座布団など
で頭部を覆いましょう。



- できるだけ軽装で
荷物はできるだけ整理
し、背負うこと。



被災後の安全点検

台風や豪雨が去った後は危険が潜んでいることが多いので、地域ぐるみで協力し合い、安全に復旧活動しましょう。

- 断線した電線が
あれば電力会社
か消防署、警察
署に通報して取
り除いてもら
う。子供に十分
な注意をし、近
くに寄らないこ
と。



- 浸水の被害にあ
ったら、感染症
を予防するた
めに消毒が大切。

- 灯油や農薬など、
危険物の漏れ出
しがないか確認
する。

- 活動時にはけが
をしないように、
長袖を着用、落
下物に備え、で
きればヘルメッ
トを。

- 落下や倒壊の危
険物はないか。
あれば補強や除
去を行う。

参加賞 ヘルピー



Pi~!

Pi~!



これは頼れる!

いざという時 助けて〜と吹いてください。人の耳に一番届きやすい3 KHzの音が出ます。ストーカー・イジメ対策・火災・地震・高齢者、身体不自由者等、人の助けを求める呼び笛として特に有効です。

だから安心!

コンパクトサイズで紐付き、いつも身につけておいて下さい。
(首に掛けて…、ポケットの中に、ベッドの側に…部屋にもひとつ) 不慮の事故の際、緊急連絡先が一目でわかり、助けが欲しい時、すぐに笛を吹いて呼ぶことができます。

身元がわかる!

名前・電話番号・住所・血液型・生年月日・保険証番号・緊急連絡先・体質又は持病 等が書き込めるネームカード付き。
耐水性インクで記入して下さい。

HELPI~の聞こえる範囲

騒音のある日中の市街地……半径100mぐらい
比較的静かな日中の郊外……半径300mぐらい
静かな郊外……半径500mぐらい
山 等……半径700mぐらい